

水産海洋地域研究集会

第 39 回 「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム

—相模湾の定置網漁業の現状、課題と今後の方向について—

共 催：一般社団法人水産海洋学会，（公財）相模湾水産振興事業団，小田原市

日 時：2015 年 10 月 20 日（火） 09：30～15：00

場 所：小田原市生涯学習センターホール（小田原市荻窪 300）

コンビナー：平野敏行（東大名誉教授），松山優治（東京海洋大名誉教授），武井 正・

岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団），鶴飼俊行（神奈川水技セ）

開会のことば：岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団） 09：30～09：40

挨拶：和田時夫（一般社団法人水産海洋学会長），加藤憲一（小田原市長），09：40～10：00
武井 正（（公財）相模湾水産振興事業団理事長）

基調講演

座 長：杉本隆成（東大名誉教授），鈴木秀彌（水産海洋学会名誉会員）

外から見直す日本の定置網漁業—現状と今後の課題 10：00～10：50
有元貴文（東京海洋大）

話 題

1. 若狭湾における定置網漁業と魚群行動調査の可能性 10：50～11：30
鮎川航太（福井水試）

・・・・・・・・・・昼 食・・・・・・・・・・ 11：30～12：30

座 長：鶴飼俊行（神奈川水技セ），石戸谷博範（（公財）相模湾水産振興事業団）

2. 相模湾における定置漁業の漁獲量と魚種組成の推移 12：30～13：20
神奈川県海域：高村正造（相模湾試）
伊豆東岸域：鈴木勇己・長谷川雅俊（伊豆分場）

3. 定置網で漁獲された魚価向上の取り組み～流通・販売面の工夫～ 13：20～14：00
泉沢 宏・林 晋也（網代漁業株式会社）

総合討論

座 長：工藤盛徳（東海大名誉教授） 14：00～15：00

(1) 現場からの意見 ①加藤 孝（大磯漁協） ②朝倉一志（真鶴漁協） ③出口 昇（小田原漁協）

(2) 討 論

閉会のことば：川崎秀一（（公財）相模湾水産振興事業団）

開催趣旨：わが国の漁業生産量が500万トン以下になった2000年頃から沿岸漁業の割合が約3割まで高まり，そのうちの定置網漁業が4割を占めるようになった。一方，全国的に漁業の衰退と漁業者の高齢化が憂慮される中，相模湾では若年層が定置網漁業に従事し，流通・販売などの魚価向上への取り組みもなされるなど明るい動きも見られる。特に相模灘を含む相模湾の定置網漁業の生産割合は高く，神奈川県海面漁業では60%を超え，静岡県海面漁業では70%前後にも及ぶ。定置網漁業では回遊性魚類を主体として1～1.5万トンが生産されているが，近年の傾向として主要魚種のマアジが減少し，それに代わりブリ類が増え始めており，2015年冬～春には20数年ぶりに10万尾を超す漁獲となった。しかし，かつてのように高値を形成するには至らなかった。本シンポジウムでは，わが国の定置網漁業の現状，課題と今後の方向について認識を共有し，安定生産を目指した定置網漁業のための新たな魚群行動調査について学ぶ。そのうえで，相模湾の定置網の漁獲量と魚種組成の推移，定置網で漁獲された魚類の流通・販売と魚価向上への取り組みについて情報を共有し，さらに相模湾で定置網漁業に従事している漁業者から直接意見を伺い，定置網漁業が抱える課題と今後の方向について論議する。